

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都府長岡京市開田1-6-6								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	三菱製紙株式会社 京都工場 執行役員京都工場長 田口量久								
事業者の主たる業種	化学工業 写真感光材料製造業（写真用感光紙・印刷製版材料・インクジェット用紙）								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	平成20年4月～平成23年3月								
基本方針	エネルギー消費効率改善及び設備の省エネ化推進で、平成22年度にCO2排出原単位3%以上向上を目指す。								
推進体制	ISO14001の推進母体である工場環境マネジメント組織のエネルギー委員会を中心に推進する。								
環境マネジメントシステム名称	三菱製紙京都工場								
	適用範囲								
	取得年月日								
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	平成20年度	工場設備（報告）	乾燥設備用大型送風機のインバーター化（2台実施）、不要空調設備等の停止及び統廃合（6箇所実施）、老朽化設備の省エネ化更新（1台実施）、冷凍機台数制御実施、操業度アップによる原単位向上						
	平成21年度	工場設備（計画）	乾燥設備用大型送風機のインバーター化（9台計画）、不要空調設備等の停止及び統廃合、老朽化設備の省エネ化更新、操業度アップによる原単位向上						
	平成22年度	工場設備（計画）	乾燥設備用送風機等のインバーター化、不要空調設備等の停止及び統廃合、老朽化設備の省エネ化更新、操業度アップによる原単位向上						
温室効果ガスの排出量等	排出区分		基準年度（実績） 平成19年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） 平成22年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） 平成20年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）		
	A 事業所等排出区分		24,712.0 t	29,189.0 t	18.1 %	22,070.8 t	-10.7 %		
	B 輸送車両排出区分		t	t	%	t	%		
	C その他排出区分		t	t	%	t	%		
	排出合計		*1 24,712.0 t	*2 29,189.0 t	18.1 %	*4 22,070.8 t	-10.7 %		
実績に対する自己評価		計画に対し、生産量が大幅増加する見込みであったが、昨年10月以降不況の影響で生産量が大幅減となり、この影響でCO2排出量が大幅に減少した。							
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	京都工場	二酸化炭素換算 生産数量	0.366 t/千㎡	0.355 t/千㎡	-3.0 %	0.358 t/千㎡	-2.2 %		
		二酸化炭素換算			%		%		
		二酸化炭素換算			%		%		
実績に対する自己評価		生産量が大幅に減少し、原単位の上昇も想定されたが、省エネ対策等の効果があり、原単位を向上させる事ができた。							
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分		目標年度（計画）			報告年度（実績）			
			取組量等	（二酸化炭素換算）		取組量等	（二酸化炭素換算）		
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）	t	（利用量）	m ³	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t	（発電量）	kwh	（削減量）	t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t
	削減量等合計			*3	t	*5		t	
	差引排出量 （排出合計－削減等合計）		基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
		*1 24,712.0 t	(a2)-(a3) 29,189.0 t	18.1 %	(a4)-(a5) 22,070.8 t	-10.7 %			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	①社会環境報告書にて当社のエネルギー削減状況を公表 ②環境省、京都府提唱のライトダウンキャンペーンに参画 京都府HPにて実施内容紹介 ③乙訓地区内各事業所で組織する勉強会にてEco通勤取組を検討								
特記事項	①平成17年 ケーボ冷凍機台数制御導入。 ②平成18年 風速ゲルによる乾燥効率の改善。 ③平成19年 ガス貫流ボイラに燃料転換。								

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成22年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。